

1 意味をつくる営み

(1) 子どものつくる意味

○ 季節の移り変わり、それに合わせてなされる人の営みを感じることに

朝市を繰り返し訪ね、『売られる野菜は季節が変わる』『季節やイベントでお客様の数が変わる』などの意味をつくる。市内の山や海、観光地を訪ね『上越市は自然が豊かだ』『夏の海と秋の海はこんなに季節によって変わっていく』などの意味をつくる。

朝市や市内各地を訪ね、季節の移ろいや、季節に合わせてなされる人の営みについて感じるとともに、上越地域の自然の豊かさや人々の温かさに気付いていく。

○ かかわって得た気づきや感動をまとめ、発信することについて

朝市や上越市内を繰り返し訪ね、心が動いたことを取材して発信することで『昭和町でおばさんが思いを込めてつくっているブルーベリーはおいしいことを伝えたい』『魚屋のおじさんが見せてくれたタイやエビの新鮮さは写真だと伝わる』などの意味をつくる。

子どもは、ファインダーをのぞいたり、諸感覚を使ったりしながら心の動きをまとめ、発信する。この活動を通じて、対象への気づきをひろげ、深めていく。

(2) 本時までの意味をつくる営み

○ 記者の視点で朝市や上越を感じる

春、手帳と一眼レフカメラを手に子ども記者が取材を始めて7か月あまり。朝市を30回以上訪ね、6回のお出かけ取材を経て、上越市の季節の変化や自然、土地や人の様子取材し、まとめ、発信してきた。

朝市では「いつもの店に行きまーす」と、子どもたちそれぞれに馴染みの店に行く様子がみられる。

たくさんのもや人に出あうとともに、学級でゴゴメ、ワラビ、新ジャガ、イタドリ、トマト、トウモロコシ、タケノコ、梅ジュースにした梅、ブルーベリー、栗、レンコン、サツマイモなど数多くの旬の食材を味わった。ファインダーをのぞいて写真を撮ったり、お店の人に説明を聞いたりしながら、心動かした珍しいものをみつけ、取材カードに蓄積してきた。訪れた自然でたっぷり遊んだり、出会った人と話をしたりする経験も重ねている。朝市の方に渡したり、「新潟komachi」に載せたりすることを目指してフリーペー

ーや記事にまとめ、自分の思いを再認識するとともに、朝市の方を中心に配ったフリーペーパーは、褒められたり、お店に貼ってもらったりしてかかわりと満足感を生むことにつながってきた。

○ イベントに参加してかかわりを深める

10月にイベント「城下町高田花ロード」があることを知り、全員一致で参加決定して何を作るかを話し合った。上越市のジオラマ上に、心に残っている「とっておきの特ダネスクープ」を紙粘土製のミニチュアにして置き、みんなで一つの作品にすることに決めた。

今までのフリーペーパーや取材カード、写真を見て、タケノコや花オクラ、五智公園のSLなど、一人一つの作品を紙粘土でつくり、ジオラマを完成させた。

子どもは、3日間の花ロード開催中、気になって見に来ては壊れた所をボンドで直したり、お客さんに作品を説明したりとかかわりを重ねた。多くの方に「すごいね」「上手だね」と言われたり、新潟日報上越支社長賞を受賞したりし、自分たちの思いを表現したものが多くの人目にとまり、認めてもらう経験をした。

○ 出店して朝市の方の気持ちを味わう

10月には、朝市感謝祭にも参加した。取材させてもらっている八百屋のおじさんが二・七の市の組合長である。「みんなもお店を出してもいいよ。ただし、他のお店やお客さんに迷惑にならないように」という話をいただいた。撮影した写真を基にしたカレンダー、あわせうたを印刷したポストカード、朝市の特ダネを紙粘土でつくったストラップ、朝市のエピソードを伝える写真絵本などの売り物や、宣伝のためののぼりやポスター、宣伝用フリーペーパーを考え、作成した。

用意したカレンダーや写真絵本、朝市ストラップは完売。詩のポストカードも用意した100枚がほぼ売り切れた。「上手だねえ」とお金を出して買って、「これどうやって作ったんだい？」とお客さんとかかわった。自分のつくった作品や詩を褒められ、選んでお金を出して買ってくれるお客さんとかかわりから、朝市にお店を出している方たちの喜びを体験できた。

7か月、取材し、かかわり、お店を出して、朝市や上越に対して思いを深めてきた。朝市感謝祭以降は、朝市のものだけでなく、人やことにも少しずつ意識が向き、地域や季節という視点を持ち始めている。

2 本時について

(1) 本時における子どものつくる意味

「新潟 komachi 1 2月号」の記事を推敲することを通して、『おいしさを伝えるためには、食べている写真を載せるとよい』、『朝市を訪ねたお客さんがトダラバパンを食べたいと思う見出しと文にするにはどうしたらいいか』『間違えた情報を載せると多くの人に影響がある』といった意味をつくる。

子どもは、記事の内容を考えることを通して、自分がどんなことに興味をもち、どんな思いをもつようになったのかを振り返る。また、読み手に自分の思いが伝わる表現を考えることを通して、多様な表現方法を見付けたり、情報発信をする際に気を付けることを確かにしたりする。

(2) 展開の視点

本時では、「新潟 komachi 1 2月号」の記事を考える。

8か月、取材を重ね、売っているものやお店の人を媒介とした朝市や、お出かけ取材に行った上越市への思いを再確認したり、季節による様子の変化に気付いたりしはじめている段階と考える。

ものの情報や感想を発信していた1学期に比べ、ものとものかかわり、自分とものかかわり、季節とものかかわりなど、比べたり、かかわらせたりした意味をつくり始めている。また、人について意味をつくり始めている。

2学期にかき溜めた取材カードや体験と、今までに描いてきたフリーペーパー作成の経験から多様な表現を模索し、よいところやアドバイスを伝え合う。

その中で、「じょうえつ.net」として発信したい記事をコンペで選び、トダラバパンの山田さんについての記事を書くことにきまっている。

トダラバパンの山田さんについての記事を考えることを通して、かかわりを深めてきた人の記事を雑誌に掲載して情報発信を行うことについて意味をつくり、チラシから正確に情報を引用すること、自分たちで食べて味を確認すること、山田さん本人にインタビューして確認することを意識してほしい。

読み手を意識するだけでなく、書かれた人の気持ちや情報の信頼性を考え、情報発信の影響を考える素地を育むことを期待する。

(3) 展開 (65分)

時間	番号；子どもの活動 ・；子どもの姿	○；教師の支援
30	1 雑誌の読み手を意識して、記事の割り付けや内容の修正点を考える ・読む人の気を引く割り付けはどのようなものかを考える。 ・読む人はまず写真を見るから、目立つ写真にするとよいと考える。	○ 今までまとめてきたフリーペーパーを基に、話し合いを進める。 ○ 4人班で記事の草稿をつくり、学級でコンペを行う。
25	2 コンペで最優秀だった草稿を基に、見出しや内容、紙面構成をブラッシュアップする ・読み手の気を引く割り付けにしようと工夫する。 ・思いを伝えるために、どんな写真と見出しを組み合わせようかを考える。	○ 想定読者像を確認する。 ○ 前時までに記事のアイデアメモを用意しておき、交流する。 ○ よいところやアドバイスを伝え合う。
10	3 読み手に思いを伝えるときに気を付けることを考える ・読み手の目がいくところや視線の移動を意識するとよいことに気付く。 ・肖像権や著作権、情報の信頼性を意識する。	○ 記事を書いた側の思い、記事を読む人のとらえ、書かれた人の気持ちをそれぞれの立場で考える。